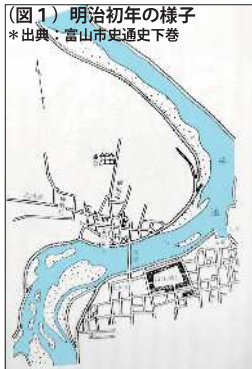
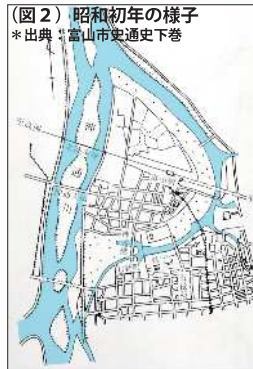


## 富山市中心市街地形成の歴史的経緯とその問題点



(図1) 明治初年の様子  
\*出典：富山市史通史下巻

図1で示すように、**神通川は現在の中心市街地を横切るように流れていた**。明治初年の富山市内の様子を表す図では、富山城址のお堀のすぐ北側を神通川が流れていることが分かる。最初県庁は、城址内に置かれていたが、昭和5の火災で全焼し、昭和10年に現在の場所に移転・完成した。



(図2) 昭和初年の様子  
\*出典：富山市史通史下巻

神通川のバイパス工事は、明治34年に馳越線工事が着工し、2年後に完成するが、度重なる水害のため、改修工事は昭和13年まで掛かり、現状となる。市内を蛇行していた神通川は徐々に埋め立てられ、今の松川に。明治41年に現在地で開業した**富山駅が埋立地を避けるように配置**されている。



(図3) ~昭和30年  
\*出典：富山市郷土博物館資料

大正13年に富山駅と大手通りを直線道路で結ぶ案が出たが、完成したのは昭和30年で、戦後の復興事業としてであった。その過程で徐々に、城址のお堀は埋め立てられていく。昭和40年に「**城址大通り**」と名付けられた軸線通りは、**その後の富山市中心市街地の発展に決定的な影響**を及ぼしていく。



(図4) 昭和の後半~

県庁舎に続き、昭和39年に県民会館、47年に県議会議事堂が現在の地に整備され、県庁舎周辺は、徐々に役所関係の建物で埋め尽くされていく。昭和40年に、**城址公園とは別に、県庁北側に公園を整備したことも城址公園の衰退の一因**となっていくことはこの時点では知る由もなかった。



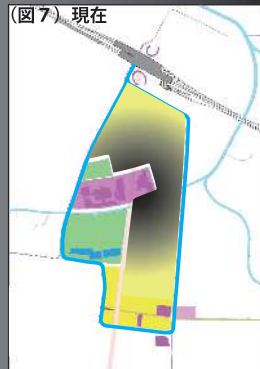
(図5) 平成4年~

平成4年に現在の市役所が完成することで、街の中心に広大な**官庁街を形成**することになる。官庁街のせいで、駅前大通りの利用は特定の人と時間帯が主になり、**大通りが徐々に衰退**していく原因となる。官庁街は、周辺の夜間移動人口を激減させただけでなく、**中心街を南北に分断する結果**ともなる。



(図6) 平成21年~

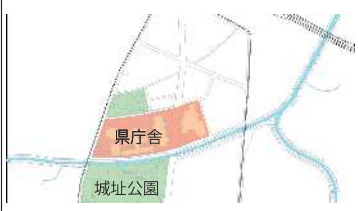
ライトレールが平成18年に開業し、平成21年に環状線が開業したことで、**繁華街である総曲輪エリア**など沿線周辺の主なスポットが繋がれ、**点と点を繋ぐ利便性は増えたが、面的活性化は逆に弱まる結果**となる。大通り沿いは大型ホテルが立ち並ぶ一方、**通りの活気はほとんど失われていく**。



(図7) 現在

総曲輪フェリオ、グランドプラザ、キラリ、ユウタウンなど総曲輪エリアは徐々に活気を取り戻しつつあるが、通り商店街は平日は閑散としており、中央通り商店街はほぼシャッターが閉まった状態。三丁目地区の再開発や中央通りD北地区など**点状の再開発が進む反面、中心街の面的空洞化は進んでいく**。

### 問題点-1：富山市の歴史を象徴する松川の荒廃



能登半島地震以前から、松川沿いは徐々に衰退の一途を辿っていたが、地震による被害は、その**衰退に拍車**をかけてしまった。松川沿いの遊歩道では、雑草が生い茂り、昼間でさえも、松川沿いの遊歩道を歩く人はほとんどいない殺伐とした風景が続く。夜となれば、街灯は全く機能しておらず、**人の寄りつかない場所**となっている。松川沿いが荒廃していくことは、**街の中心部の空洞化を加速**させている。

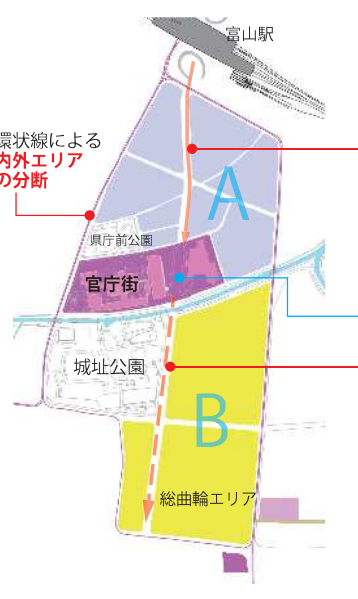


**昼の松川沿い**は役所から少し離れると、ほとんど整備されていない状態が続く。雑草も生え放題で、遊歩道から松川を見ることも困難。歩くことが**困難な場所**さえある。



**夜の松川沿い**は、街灯がない場所もあり、街灯があっても**かなり暗く全く機能していない**。歩くことが**怖い場所**にもなっており、全く人を寄せ付けない場所となっている。

### 問題点-2：街を分断する官庁街と空洞化を象徴する二つの公園



環状線による**内外エリアの分断**



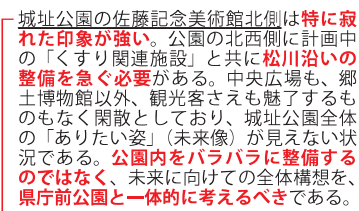
城址大通りは官庁街、沿道沿いの大型ホテルや企業ビルへ行く人の利用が中心になり、利用人口、利用時間も限られるため、大通り沿いが**活性化されていない状況**が続いている。



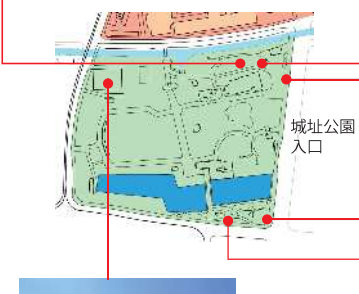
駅から松川より南まで歩くには距離も遠く、城址公園から南の大通り沿いも魅力に欠けるため、城址大通り沿いを**松川を超えて総曲輪エリアまで歩く人は少ない**。総曲輪エリアに行く人は、路面電車を使う傾向にある。

【官庁街と松川による南北の分断】

### 問題点-3：最大の観光スポットでもある城址公園の静けさ



城址公園の佐藤記念美術館北側は**特に寂れた印象が強い**。公園の北西側に計画中の「くすり関連施設」と共に**松川沿いの整備を急ぐ必要がある**。中央広場も、郷土博物館以外、観光客さえも魅了するものもなく閑散としており、城址公園全体の「**ありたい姿**」(未来像)が見えない状況である。**公園内をバラバラに整備するのではなく、未来に向けての全体構想を、県庁前公園と一体的に考えるべき**である。



「くすり関連施設」建設予定地。松川沿いの整備と一体的に行わない限り、**点の開発で終わってしまう**。



松川茶屋を過ぎた佐藤記念美術館北側の荒廃ぶり。高木による薄暗い空間は、**死角が生かさない**。



お堀の南東角。十字路に面した印象的な場所なので、**オブジェを新しくするなど更新が必要**。

お堀を望められるせつかくの空間も、舗装、看板やベンチに**統一感がなく落ち着かない場所**。

# Connecting journeys ~回遊する線と線を繋げて面を活性化する~

## (1) ありたい姿への提案 (歴史・水辺・緑を活かした憩いと親しみの空間) - その1

### 【富山市の歴史に欠かせない松川】~問題点-1への提案



神通川から松川への歴史の変遷から分かるように、松川の存在はまさに**中心市街地形成の歴史を体現**している。また、街の中心の美しい川を街の発展に活かしていないことは非常に残念で、**昨今の富山市は、松川に背を向けてきた**と言える。松川を再生することは、これからの中心市街地の**再生には欠かせない**。地震前から松川沿いは衰退した状況であり、そのまま放置すると今後**更に衰退は加速**することが予想される。**今こそ松川沿いを中心に市街地を再生**しなければいけない。

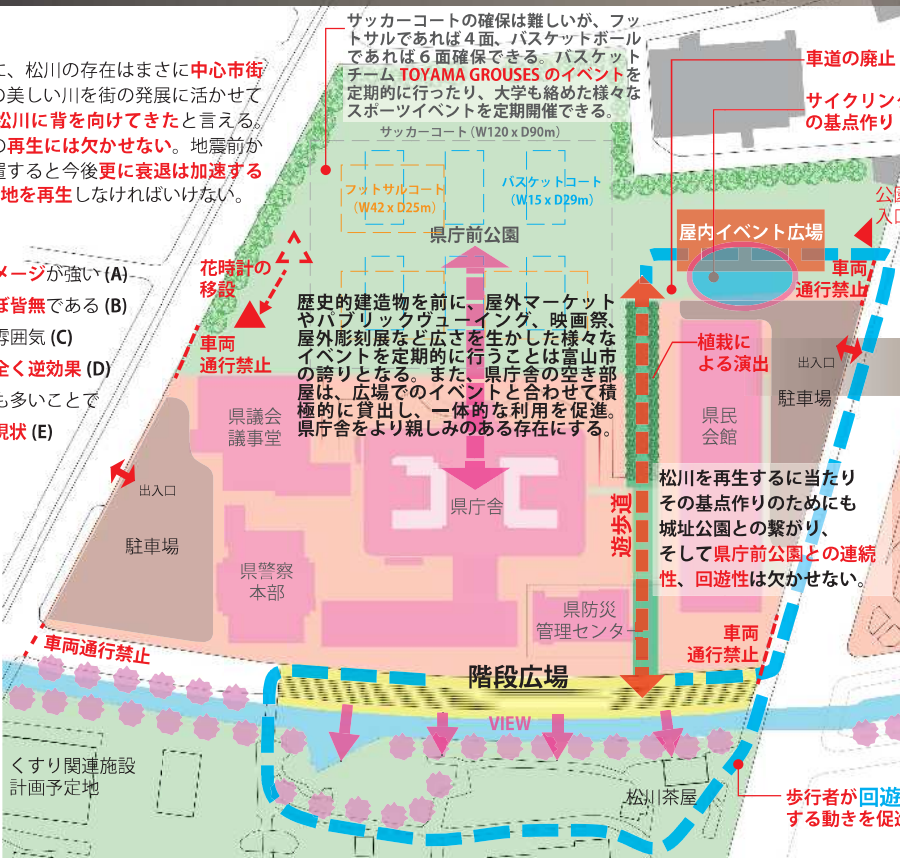
### (現状の松川の問題点)

- 能登地震で土手や舗装などが壊れており修復中ではあるが、**荒廃したイメージ**が強い (A)
- 川沿いの遊歩道の植栽の手入れがなされておらず、**遊歩道を歩く人はほぼ皆無**である (B)
- 遊歩道沿いのベンチや東屋が古く**全く今の時代に合っていない**荒廃した雰囲気 (C)
- 遊歩道と車道との境界の花壇が、歩道外からの**死角や閉塞感をつくり、全く逆効果** (D)
- **夜間の照明が暗過ぎ全く機能してない**。また、遊歩道に照明がない箇所も多いことで夜間は怖い印象しかなく、**夜間に遊歩道を歩く人はほとんど誰もいない現状** (E)



### (松川再生の指針)

地震で壊れた部分の補修だけでなく、遊歩道の再整備も同時進行させることが重要である (3ページ目を参照)



(年間予定表)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
屋内イベント広場	定期マーケット	定期マーケット	産学協同イベント	産学協同イベント	産学協同イベント	産学協同イベント	産学協同イベント	産学協同イベント	産学協同イベント	産学協同イベント	産学協同イベント	産学協同イベント
県庁前公園	お正月マーケット	お正月マーケット	お正月マーケット	お正月マーケット	お正月マーケット	お正月マーケット	お正月マーケット	お正月マーケット	お正月マーケット	お正月マーケット	お正月マーケット	お正月マーケット

## (2) ありたい姿への提案 (多様なプレイヤーなどの人々の交流、まちの核)

### 【ガラスの舗装で富山の魅力を】~問題点-2への提案

県庁エリアを活性化するには、様々な規模のイベントが行える空間作りと県庁舎という**歴史的建造物との一体感**が何よりも大切である。そのために、**県庁北側の車道を廃止**し、県庁前公園と県庁の敷地、NHK跡地を一体化した公園とする。また、NHK跡地には、**産学協同イベント、マーケット**などを雨天でも定期開催出来る簡素な建築物だけを建てる。**県庁前公園の噴水は今後の長いスパンでの管理費を考慮して撤去**し、公園全体で**様々な大規模イベントを開催**できるようにする。現在の県庁前公園の南側車道沿いにある**高木は死角を作り閉鎖的な印象しか与えないので、NHK跡地との境にある高木と共に移動**する。**県庁前公園の地面には、富山のガラスを使用した唯一無二の舗装を施し、何も無いことが一番の魅力の空間にし、防災拠点にもする**。**舗装のデザインは、コンペで国内外からデザインを募集し、広く注目を集めるようにすることで様々なプレイヤーが関わることに**。



## (1) ありたい姿への提案 (歴史・水辺・緑を活かした憩いと親しみの空間) - その2

### 【県庁南側の松川沿いに新たな親水広場】~問題点-1,2,3への提案

松川を再生するに当たっては、**多くの人々が憩える新しい拠点**を作ることが重要である。またそれは、城址公園との繋がり、そして県庁前公園との連続性、そして**回遊性は欠かせない**。誰でも立ち寄り、川の近くで憩える**親水空間としての階段広場**は、**新たな街の顔の一つ**となる。今まで街を分断していた官庁街への意識を一新させる絶好の機会であり、松川と城址公園の再生へと繋がる。

### (松川再生のための基点の創出)

- **県庁南側の車道を廃止**し、松川沿いに幅の広い**階段状の広場**を整備する。
- 階段広場からは、松川を通して、**城址公園を一望**することが出来る。
- 人が憩う場所を作ること、**階段広場が東西川沿いへの散策の基点**となる。
- 県庁前公園から通り抜けられる**遊歩道を整備し、県庁前公園との連続性**を演出することで、人の**回遊性**を促し、二つの広場の**一体的な活性化**を生み出す。
- 県庁前公園と城址公園が繋がることで、官庁街による**街の分断を解消**する。
- 松川茶屋と向かい合うことで、**見る / 見られるの相乗効果**を生み出す。



## (松川再生の指針)

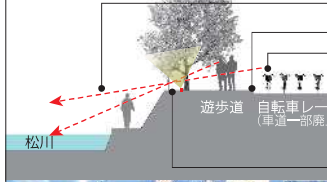
### 【松川再生のイメージ】

#### 【松川沿いの遊歩道の再整備】~問題点-1への提案

松川の再生には、**遊歩道を開放的で明るい環境にすることが最重要である。**

- ・桜の木以外の植栽を伐採することで、**出来るだけ松川が見えるようにする**。また、遊歩道と車道との境界の花壇を**全て撤去**することで、車道や自転車レーンからも遊歩道が見渡せるようになり、**明るく開放的な雰囲気**の川沿いとなる。(花壇や不要な植栽が遊歩道に**死角**を形成し、遊歩道の**衰退を加速**させている)
- ・照明を出来るだけ早く新しいものに更新し、**夜間の松川沿いに人気を戻す**。
- ・歩道の舗装を変え、**遊歩道のイメージを一新**する。
- ・遊歩道沿いの車道を一部廃止し、**自転車レーンを設置**。松川沿いに一年中、人の動きを生み出す(中心市街地に現在整備されている自転車レーンは**その存在が非常に判別し難い**ので、景観に合い、もっとはっきりした色にする)
- ・観光客や桜の時期だけでなく、**地元の人**が一年中、**昼夜共に散歩**したくなるような**憩いの場所**として、遊歩道を整備していく。

#### 松川沿い遊歩道の断面 (提案)



常に**遊歩道から川が見える**ように桜以外の植栽は伐採  
遊歩道と車道の間には**死角**を作るような物は置かず、**開放的な遊歩道**とする  
車道は一部廃止し、自転車レーンからも川が見えるようにする  
照明や手摺りを新調する

#### 松川沿いの夜間照明のイメージ



#### 現状の松川沿い遊歩道の死角



#### 現状の松川沿い遊歩道の死角



#### 自転車レーンの再整備



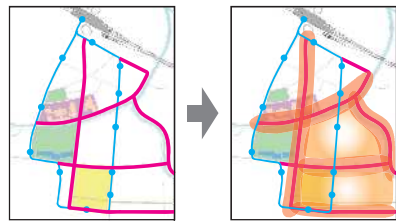
### (3) ありたい姿への提案 (まちなかの連続性・回遊性)~点から線へ、そして面へ

#### 【中心市街地を線から面的に発展させるための全体構想~街の魅力を再発見する】~問題点-2への提案



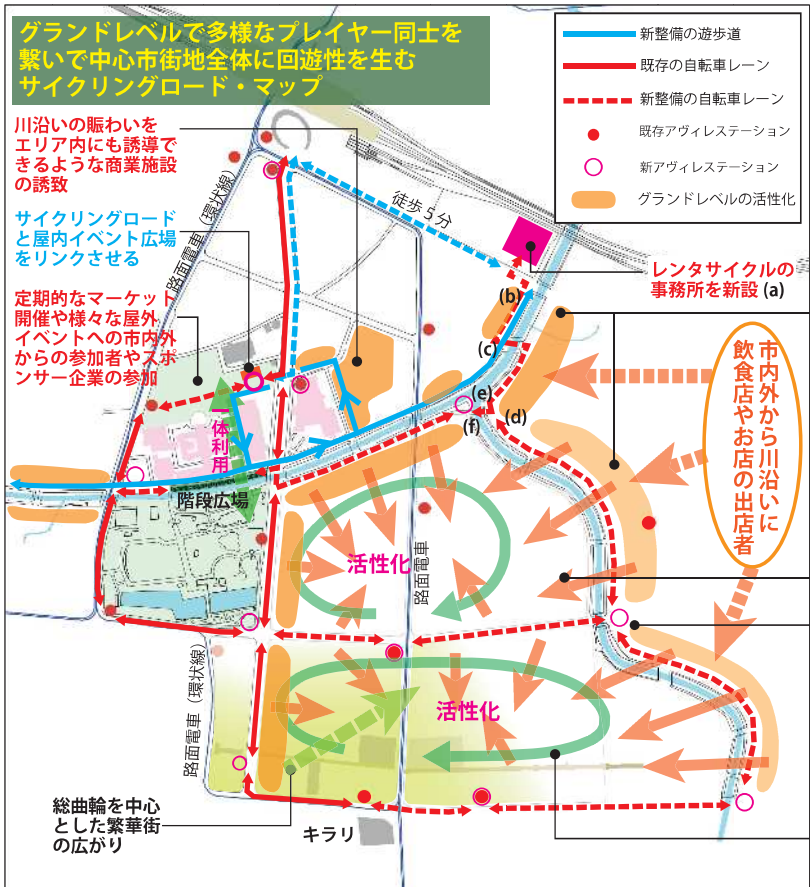
#### (点と点を繋ぐ路面電車)

環状線は点と点を結ぶことには役立ったが、結果的には**点からの面的効果はほとんどなく**、環状線の**内と外を際立たせる結果**となった。富山市が掲げる『コンパクトなまちづくり』の「お団子」の構想は良いが、現状の富山市の中心市街地では良い結果を出せているとは言い難い。



#### (線と線を繋ぎ面へ展開するサイクリスト)

富山市中心市街地は、駅から総曲輪地区の方まで歩くには少し遠く、環状線のお陰で、ほとんどの人が路面電車を利用する。そうすることで、**逆に街を線的に繋ぐ力が弱まっている**。街の**活性化にはランドレベル(地上1階)の活性化が必要不可欠**で、ランドレベルで点と点を繋いで、線的にゆっくりと街を体験してくれる有効な手段は自転車と歩行者である。**自転車レーンを整備することは、回遊者の増加にも繋がる。**



街の再生には、**ランドレベル(地上1階)を通行者に対し開放的で魅力的なものにすることが何よりも重要である。**

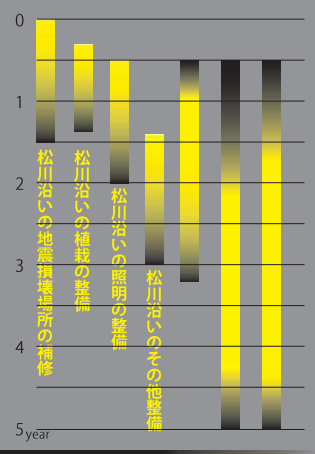
現在の松川といち川沿いは死角となる場所も多く、川の魅力が周辺に伝わっていない。川沿いの物理的整備と共にソフト面の整備も大切である。現在の中心市街地は、路面電車の環状線が出来たことで便利にはなったが、その便利さが逆に、人がゆっくりとした速度で移動することを妨げている。それを実現出来るのが、提案の**サイクリングロード**である。これは観光客のためだけでなく、**周辺に職住している人が街の魅力を再発見するためのもの**でもある。自転車を通りたくなる川沿いにするには、遊歩道も増やし、インバウンドだけに頼らない**持続的な街の活性化と様々なプレイヤーを継続的に街に引き寄せる推進力**となる。

- 川沿いの遊歩道やサイクリングロードが整備され、昼夜共に賑わいが生まれることで、市内外から飲食店を中心とした**様々なお店の出店者や、川沿いに住みたい人などが徐々に増え活気を生んでいく。**
- いち川沿いを活性化させることは、街の**外堀から攻める**ようなもので、内側の中心市街地の**面的活性化**に繋がる。
- サイクリングロードの結節点には**シェアサイクルステーションを増設**し、どこからでも簡単に乗り降り出来るようにする。また市民は安く使用できるようにする。観光客だけでなく、市民やビジネスマンの利用が当たり前になるように推進する。
- サイクリングロードを整備することで、中心市街地に**大きな回遊動線**を生み出す。

「レンタサイクル事務所」から「いち川」まで



### 提案の実行スケジュール



### (4) その他提案



#### タワーマンションの問題

2005年以降に総曲輪周辺で完成した市街地開発事業で、①~⑤はタワーマンションである。タワーマンは、密度の高い都心において有効な手段であるが、低層低密度の建物も多い富山市中心部において、**この先の人口減少社会を見据えた住居のあり方として適切かどうかは再検討が必要**である。タワーマン規制を打ち出している都市もある中、**富山市は低層低密度の魅力をもっと生かすべき**である。